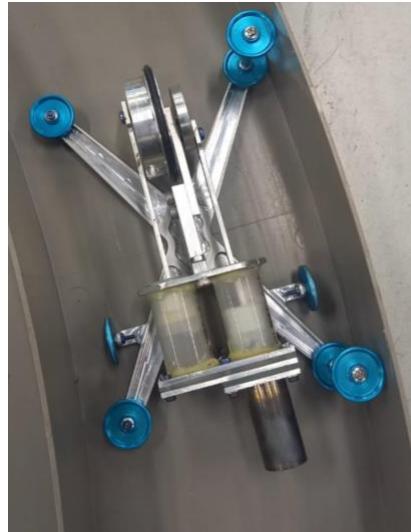


[IM500083]

[Fusion 360 CAM 活用ノウハウ ファナック ロボドリル、三菱 マシニングセンタ 編]

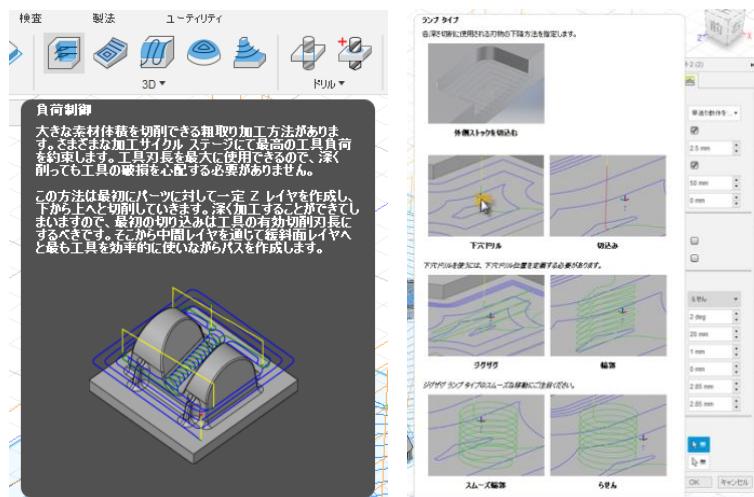
戸井田海世 | Kaise TOIDA
ものづくり大学 総合機械学科



セッションの目的

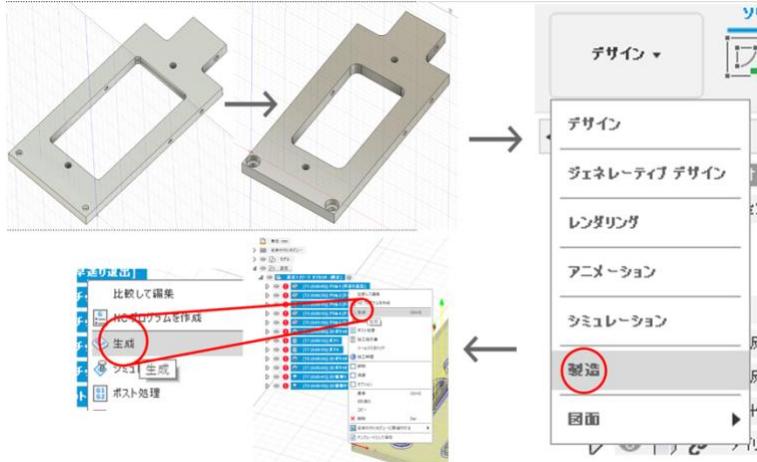
ものづくりにおいてデジタルを用いた製造、加工の選択肢がより身近になってきています。このセッションでは、Fusion 360 を用いて切削する際に気をつけること、便利な機能をご紹介します。

Fusion 360 CAM の推し機能 3 選



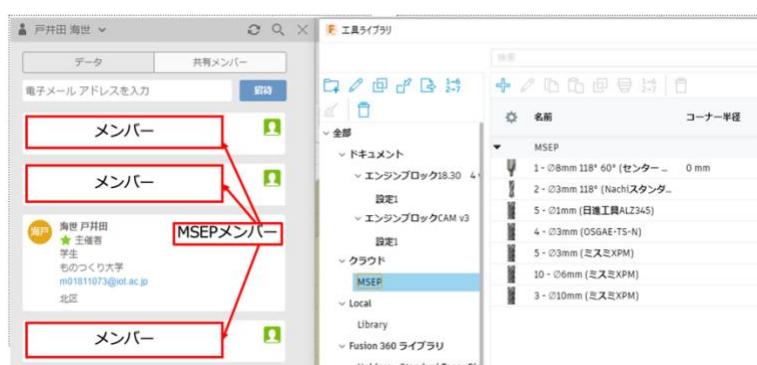
コマンド機能説明

Fusion 360 CAM は各ボタンにカーソルを合わせると機能説明が絵つき出てきます。そのため初めて使う場合や、機能を忘れてしまっても生成して加工パスから読み取る必要がなくとても便利です。特にランプタイプや高さのオフセット値など項目がいくつもあるものでも、例と説明があるため加工パスがイメージしやすく、わかりやすい。



CAD と CAM 機能が一体

CAD/CAM が一体であることによる、修正変更のしやすさがあげられます。例えば左上の写真のような CAM をすでに作っているとします。その後中央の写真のように CAD に変更を加えても、製造、生成とボタンをクリックしていくだけで、CAM の加工パスが修正されるのでファイルを保存しなおすなどの手間がなくスムーズに作業ができます。



工具共有が便利

Fusion360 には CAD の共有機能があります。CAM にも CAD 同様に工具と切削条件も共有することができます。共有メンバーそれぞれが良い切削条件を見つければメンバーごとに計算する必要がなくそのまま使用することができます。エンドミルに名前を付けておくと工具が増えてしまっても判別が

つきやすいのでおすすめです。共有機能はネット環境があればどこでも使うことができます。

ストーリー:町工場がジェネレーティブ デザインで生み出す次世代の下町アーチェリー

<https://redshift.autodesk.co.jp/generative-design-archery/>

Fusion 360 が学べる情報サイト DESIGN NOW

<https://www.autodesk.co.jp/campaigns/design-now/learning-contents>